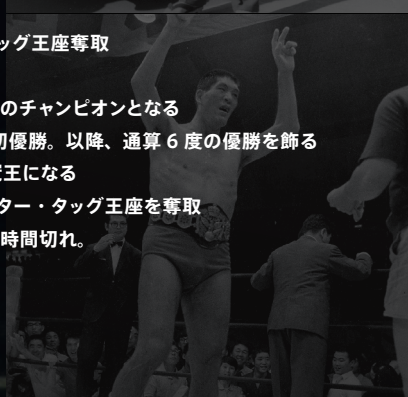
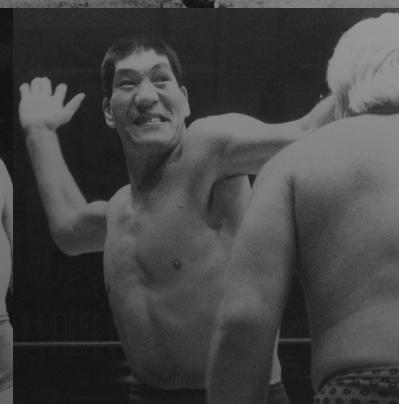
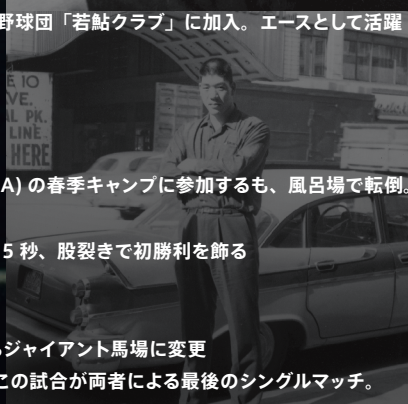


# 01 ジャイアント馬場 公式年表

|               |           |                                                                               |
|---------------|-----------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 昭和 13(1938) 年 | 1 月 23 日  | 新潟県三条市西四日町で青果商を営む馬場一雄、ミツ夫妻の間に生まれる。兄 1 人、姉 2 人。体重は 750 匁 (約 2800 グラム) だった。     |
| 昭和 19(1944) 年 | 4 月       | 四日町国民学校 (旧・四日町小学校、現・嵐南小学校) 入学。新入生の中では最も身長が低かった                                |
| 昭和 23(1948) 年 | 4 月       | 小学 5 年になった頃から体が大きくなり始め、家業を手伝うかたわら、少年野球団「若鮎クラブ」に加入。エースとして活躍                    |
| 昭和 25(1950) 年 | 4 月       | 三条第一中学校入学                                                                     |
| 昭和 28(1953) 年 | 4 月       | 県立三条実業高等学校 (現・県立三条商業高等学校) 機械科入学                                               |
| 昭和 29(1954) 年 | 11 月      | プロ野球「読売巨人軍」からスカウトを受け投手として入団。背番号 59                                            |
| 昭和 32(1957) 年 | 8 月 25 日  | 甲子園球場での大阪タイガース (現・阪神) 戦で一軍初登板                                                 |
| 昭和 35(1960) 年 | 2 月       | 前年限りで巨人軍から戦力外通告を受けたのち、大洋ホエールズ (現・DeNA) の春季キャンプに参加するも、風呂場で転倒。                  |
|               | 4 月 11 日  | 日本プロレス入門                                                                      |
|               | 9 月 30 日  | 東京・台東体育館での対田中米太郎戦でプロレスラーとしてデビュー。5 分 15 秒、股裂きで初勝利を飾る                           |
| 昭和 36(1961) 年 | 7 月 1 日   | アメリカヘ武者修行に出発                                                                  |
| 昭和 38(1963) 年 | 3 月 17 日  | 力道山とともに凱旋帰国                                                                   |
| 昭和 38(1963) 年 | 3 月 22 日  | 「第 5 回ワールド・リーグ戦」の前夜祭に出場。リングネームが馬場正平からジャイアント馬場に変更                              |
| 昭和 38(1963) 年 | 10 月 2 日  | 栃木・足利大会でアントニオ猪木との通算 16 回目となる一騎打ちに勝利。この試合が両者による最後のシングルマッチ。通算成績は馬場の 16 勝 0 敗だった |
| 昭和 39(1964) 年 | 5 月 29 日  | 豊登とのコンビでジン・キンスキー&カリブス・ハリケーン組を破りアジアタッグ王座奪取                                     |
| 昭和 40(1965) 年 | 2 月       | 3 度目の渡米。32 文ドロップキックを習得する                                                      |
|               | 11 月 24 日 | NWA 代表のディック・ザ・ブルーザーを下し、復活インターナショナル王座のチャンピオンとなる                                |
| 昭和 41(1966) 年 | 5 月 13 日  | 東京体育館でウイルバー・スナイダーを下し「第 8 回ワールド・リーグ戦」初優勝。以降、通算 6 度の優勝を飾る                       |
|               | 11 月 5 日  | 吉村道明とのコンビでインターナショナル・タッグ王座を奪取。インター二冠王になる                                       |
| 昭和 42(1967) 年 | 10 月 31 日 | アントニオ猪木とのコンビでビル・ワット&ターザン・タイラー組を破りインター・タッグ王座を奪取                                |
| 昭和 44(1969) 年 | 12 月 3 日  | 東京体育館でNWA世界ヘビー級王者のドリー・ファンク・ジュニアと 60 分時間切れ。この試合でランニング・ネックブリーカードロップを初公開         |
| 昭和 46(1971) 年 | 9 月 16 日  | ハワイで元子夫人と結婚式を挙げる                                                              |
| 昭和 47(1972) 年 | 7 月 29 日  | 日本プロレスに辞表提出                                                                   |



左腕を負傷しプロ野球生活を断念。

ジャイアント馬場 / 登録 5140282 (商願 2007-049476)

GIANT BABA / 登録 5140283 (商願 2007-049477)

Copyright © 株式会社 H.J.T.Production All Rights Reserved.



# 02 ジャイアント馬場 公式年表

|               |           |                                                                                                                                       |
|---------------|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 昭和 47(1972) 年 | 9 月 9 日   | 全日本プロレスの設立を発表                                                                                                                         |
|               | 10 月 21 日 | 東京・町田市体育館で全日本プロレスの初興行を開催                                                                                                              |
| 昭和 48(1973) 年 | 3 月 16 日  | PWF(太平洋沿岸レスリング連盟)世界ヘビー級初代王者に認定される                                                                                                     |
|               | 4 月 21 日  | 福井市体育館でマーク・ルーインを下し「第1回チャンピオン・カーニバル」制覇。以降、通算 7 度の優勝を飾る                                                                                 |
| 昭和 49(1974) 年 | 12 月 2 日  | 鹿児島県立体育館でジャック・プリスコを下し第 49 代 NWA 世界ヘビー級王者となる。日本人初の快挙。以降、通算 3 度、同王座に就いた                                                                 |
| 昭和 50(1975) 年 | 2 月 5 日   | ジャンボ鶴田とのコンビでドリー・ファンク・ジュニア&テリー・ファンク組を破りインター・タッグ王座を奪取                                                                                   |
| 昭和 53(1978) 年 | 12 月 15 日 | ジャンボ鶴田とのコンビで「世界最強タッグ決定リーグ戦」初優勝                                                                                                        |
| 昭和 54(1979) 年 | 8 月 26 日  | 東京・日本武道館で東京スポーツ新聞社主催「夢のオールスター戦」開催。馬場はA・猪木とB1砲を結成。アブドーラ・ザ・ブッチャー&タイガー・ジェット・シン組を下した                                                      |
| 昭和 55(1980) 年 | 4 月 25 日  | 高知大会でのザ・シークとのシングルマッチで国内公式戦 3000 試合連続出場記録を達成                                                                                           |
| 昭和 57(1982) 年 | 2 月 4 日   | 東京体育館でスタン・ハンセンと初の一騎打ち。年間最高試合に輝く大熱戦を展開した                                                                                               |
| 昭和 59(1984) 年 | 4 月 25 日  | 横浜大会での対スタン・ハンセン&ブルーザー・プロディ戦で首を負傷。翌日の試合を欠場し国内連続試合出場記録が3711でストップした                                                                      |
| 昭和 63(1988) 年 | 10 月 28 日 | 横浜大会でラッシャー木村との「義兄弟コンビ」が実現                                                                                                             |
| 平成 1(1989) 年  | 3 月 27 日  | 東京・後楽園ホールにおいて小橋健太とのコンビでサムソン冬木&川田利明組が保持するアジアタッグ王座に挑戦。馬場にとってはこれが生涯最後のタイトルマッチ                                                            |
| 平成 2(1990) 年  | 4 月 13 日  | 東京ドームで「日米レスリングサミット」開催。馬場はアンドレ・ザ・ジャイアントと夢の「大巨人コンビ」を結成                                                                                  |
|               | 9 月 30 日  | 東京・後楽園ホールでデビュー30周年記念特別試合。アブドーラ・ザ・ブッチャーとのコンビでアンドレ・ザ・ジャイアント&スタン・ハンセン組と対戦した                                                              |
|               | 11 月 30 日 | 北海道・帯広大会での試合中、リング下に転落し左大腿骨断裂骨折。約3カ月の入院生活を余儀なくされた                                                                                      |
| 平成 3(1991) 年  | 6 月 1 日   | 東京・日本武道館にて「復活の日」。183 日ぶりの復帰戦を白星で飾った                                                                                                   |
| 平成 5(1993) 年  | 4 月 20 日  | 福島体育館で前人未到の国内通算 5000 試合出場を達成                                                                                                          |
| 平成 6(1994) 年  | 3 月 5 日   | 東京・日本武道館でファン投票による「夢のカード」に出場。スタン・ハンセンとのコンビで三沢光晴&小橋健太組と対戦。馬場は三沢に3カウントを奪われたが、その奮闘ぶりに超満員の観衆は大きな拍手を送った                                     |
| 平成 10(1998) 年 | 1 月 23 日  | 東京・後楽園ホールで還暦記念試合。三沢光晴&マウナケア・モスマンとのトリオで川田利明&小橋健太&洲正信組と対戦。馬場は十八番のランニング・ネックブリーカードロップで瀕から見事な3カウントを奪った                                     |
|               | 5 月 1 日   | 全日本プロレス単独としては初の東京ドーム大会を開催。5 万 8300 人の大観衆を集める。馬場はハヤブサ&志賀賢太郎とのトリオで新崎人生&ジャイアント・キメラ&泉田純組と対戦し快勝                                            |
|               | 12 月 5 日  | 年内最終戦の日本武道館大会に出場 (G・馬場&R・木村&百田光雄組対洲正信&永源遙&菊地毅組)。国内通算 5758 戦目。シリーズ終了後、検査入院に入る                                                          |
| 平成 11(1999) 年 | 1 月 31 日  | 午後 4 時 4 分、肝不全により永眠。享年 61                                                                                                             |
|               | 4 月 17 日  | 最後のリングとなった日本武道館において「ジャイアント馬場お別れの会『ありがとう』」を開催。日本全国から 2 万 8000 人のファンが駆けつけた                                                              |
|               | 5 月 2 日   | 東京ドームで「ジャイアント馬場『引退』記念興行」を開催。6 万 5000 人の大観衆の見守るなか、オーロラビジョンにて国内通算 5759 試合目として馬場&ザ・デストロイヤー対ブルーノ・サンマルチノ&ジン・キニスキー (特別立会人はロード・ブレアース) をおこなった |
| 平成 28(2016) 年 | 9 月 5 日   | 平成 28 年三条市議会第 4 回定例会において名誉市民とする旨が承認され、三条市における 6 人目の名誉市民となる                                                                            |
| 平成 31(2019) 年 | 2 月 19 日  | 東京・両国国技館で「ジャイアント馬場没 20 年追善興行〜王者の魂〜」を開催                                                                                                |
| 令和 3(2021) 年  | 2 月 4 日   | 東京・後楽園ホールで「ジャイアント馬場 23 回忌追善興行」を開催                                                                                                     |

